

## 令和3年度事業報告(美術館)

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

### 公益目的事業2(展覧会事業)

#### 1. 「ミネアポリス美術館展」の開催

33日間(緊急事態宣言発令による34日間休館を除く)、ミネアポリス美術館、読売新聞社と共催

- ア. 名称 サントリー美術館 開館60周年記念「ミネアポリス美術館 日本絵画の名品」
- イ. 会期 令和3年4月14日(水)～令和3年6月27日(日)
- ウ. 概要 ミネアポリス美術館(アメリカ・ミネソタ州)は、約2,500点の浮世絵をはじめ、質・量ともにアメリカ国内でも有数の日本美術コレクションを所蔵し国際的にも高い評価を得ている。本展では、同館が所蔵する狩野派・琳派・奇想派・浮世絵など江戸絵画を中心に、中世から近代にいたる日本絵画の変遷を人気絵師たちの選りすぐりの優品を通じて紹介。残念ながら会期中、緊急事態宣言発令に伴う休館を余儀なくされたが、コロナ禍で自粛を求められ、また大きな不安を抱えている美術ファンに対して、この時期に大規模な里帰り展を開催したことは当館の実行力と存在感を大いにアピールする展覧会となった。
- エ. 展示
- ・群仙図襖(旧・天祥院客殿襖絵) 四面 江戸時代 正保3年(1646)
  - ・花鳥図屏風 六曲一双 雪村周継 室町時代 16世紀
  - ・群鶴図屏風 六曲一双 曾我蕭白 江戸時代 18世紀
- (上記いずれもミネアポリス美術館蔵)

#### 2. 「ざわつく日本美術展」の開催 42日間 朝日新聞社共催

- ア. 名称 サントリー美術館開館60周年記念「ざわつく日本美術」
- イ. 会期 令和3年7月14日(水)～令和3年8月29日(日)
- ウ. 概要 作品を「見る」ために展覧会へ行ったものの、解説を読むのに精一杯で肝心の作品の印象が残っていない...そんな体験はないだろうか?本展は、「心がざわつく」ような展示や作品を通して、「作品を見たい!」という気持ちを高めてもらいつつ当館の名品から珍品、秘宝まで、作品を「見る」ことを意識して愉しみながら、日本美術の粋を気軽に味わってもらおうべく開催。その斬新さと着眼点が話題を呼び、他館からも企画のヒヤリングを希望される等、当館の企画力をアピールするとともにこれまでの美術展スタイルに新たな一石を投じる展覧会となった。
- エ. 展示
- ・重要文化財 桐竹鳳凰蒔絵文台・硯箱 一具 桃山時代 17世紀初
  - ・重要文化財 病草紙断簡「不眠の女」 一幅 平安時代 12世紀
  - ・尾上菊五郎 一枚 明治時代 19世紀
- (上記いずれもサントリー美術館蔵)

### 3. 「刀剣展」の開催 42日間 読売新聞社共催

- ア. 名称 サントリー美術館開館60周年記念「刀剣 もののふの心」
- イ. 会期 令和3年9月15日(水)～令和3年10月31日(日)
- ウ. 概要 主に近畿地方の社寺に奉納された貴重な刀剣類と武家の暮らしを伝える絵画や史料により多様な刀剣文化を紹介。刀剣は京都・大覚寺の「名物膝丸・薄緑」をはじめなだたる名品を展示。当館所蔵の狩野元信筆「酒伝童子絵巻」など刀剣にちなむ絵画も並べ、優れた工芸技術と武士の美意識、精神が織りなす世界を創出。刀剣という当館開館以来初となるテーマに挑むとともに新たな業界とのコラボレーション(ゲーム刀剣乱舞)により、これまで来館経験の無い層(若者層、とりわけ刀剣女子)に対して当館への認知獲得・向上と来場を実現する等、話題性の高い展覧会となった。
- エ. 展示
- ・重要文化財 太刀 銘口忠(名物膝丸・薄緑) 一口 鎌倉時代 大覚寺蔵
  - ・重要文化財 刀 金象嵌銘(名物義元左文字) 一口 建勲神社蔵
  - ・重要文化財 酒伝童子絵巻 三巻 サントリー美術館蔵

### 4. 「聖徳太子展」の開催 46日間 和宗総本山四天王寺・大阪市立美術館・日本経済新聞社共催

- ア. 名称 サントリー美術館開館60周年記念「千四百年御聖忌記念特別展 聖徳太子」
- イ. 会期 令和3年11月17日(水)～令和4年1月10日(月・祝)
- ウ. 概要 聖徳太子(574～622)は、推古天皇の摂政となり国の礎を築く一方で、仏教を篤く信奉し、日本の仏教の出発点となった人物である。後世には聖徳太子への信仰が生まれ、諸宗派の名だたる高僧、貴族から庶民に至るまで、人々の尊崇を集めてきた。本展では、聖徳太子没後1400年を記念し、大阪・四天王寺の協力のもと、その生涯をたどりつつ、現代まで続く信仰の広がりやゆかりの名品によって紹介した。特に現代の美術ファンやなじみの無い若者層にも太子の魅力や価値、存在感を伝えるべく、太子を主人公とした漫画の原画(山岸涼子氏作)や旧一万円札などの展示を実現。これまでのオーソドックスな仏教美術展とは一味違う展示構成により当館の企画力を大いにアピールする展覧会となった。
- エ. 展示
- ・国宝 四天王寺縁起 後醍醐天皇宸翰本 一巻 南北朝時代 建武二年(1335)
  - ・国宝 扇面法華経冊子 5帖のうち 平安時代 12世紀
  - ・南無仏太子像 一軀 南北朝時代 14世紀  
(上記いずれも大阪・四天王寺蔵)

### 5. 「よみがえる正倉院宝物展」の開催 54日間 宮内庁・朝日新聞社・NHK共催

- ア. 名称 「御大典記念特別展 よみがえる正倉院宝物 再現模造にみる天平の技」
- イ. 会期 令和4年1月26日(水)～令和4年3月27日(日)

ウ. 概要 天皇陛下のご即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し開催。正倉院宝物の模造製作は、明治時代に奈良・東大寺で開催された奈良博覧会を機に開始、昭和47年(1972年)より宮内庁正倉院事務所にて宝物の材料や技法、構造の忠実な再現に重きが置かれるようになった。以来、現代の名工たちの熟練の技と最新の調査・研究成果との融合により、これまでに製作された数百点におよぶ再現模造の優品のなかから、選りすぐりの逸品を公開。来場者からはオリジナル以上に感動した、名工の技へ驚きを覚えたといった声を多く頂く等、評価の高い展覧会となった。なお会期中、皇室より寛仁親王妃信子殿下、彬子女王殿下のお成りをいただいた。

エ. 展示

- ・模造 螺鈿紫檀五絃琵琶 一面 平成23～30年 宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 金銀平脱皮箱 一合 昭和時代 奈良国立博物館蔵
- ・模造 金銀平脱八角鏡 一面 昭和7年 東京国立博物館蔵

## 収益事業

### 1. 物販事業

所蔵品をモチーフとした商品開発、展覧会内容・季節の催事を取り入れた店頭ディスプレイにより、お客様に繰り返し足を運んでいただける魅力的なミュージアムショップを目指した。

### 2. 飲食事業

「加賀麩 不室屋」の老舗ならではの信頼感とブランド力を活かしつつ、現代の感性を取り入れたメニューを提供し、新規顧客の拡大とリピーターの増加を目指した。

### 3. 貸室事業

「茶室」の貸出を通じて、収益を得るだけでなく、日本の伝統文化の啓蒙という当館ならではの価値訴求を心掛けた。

以 上